

いのちと健康

ニュース

NO. 91

1995年 7月 1日
愛知働くもののいのちと健康を守るセンター
名古屋市熱田区沢下町9番3号
労働会館本館3F TEL. FAX 052-883-6966
編集発行責任者 中原 東四郎

[日本自治体労働組合総連合]

第11回 地方公務員労働安全交流集会 衛生・職業病交流集会

5/27～29、山口県・宇部市

自治労連主催の第11回地方公務員労働安全衛生・職業病全国交流集会が、山口県宇部市内の宇部全日空ホテルで開催されました。

スローガン「学ぼう、語ろう、交流しよう いのちと健康」を合言葉にして全国から自治体労働者が集まり、いのちと健康を守るため労働安全衛生活動や職業病対策をどうすすめているかどうしたら良いか交流しました。

【基礎講座】

- ①『自治体労働者の労安活動、きのう・きょう・あす』のパンフによる活動入門
- ②労安活動の理論と実践『読本』を中心
- ③現業労働者の労働安全衛生活動

【分科会】

- ①公務災害認定・実務・補償と職業病闘争。
- ②ストレス・メンタルヘルスを中心にして。

【記念講演】

「快適職場環境実現をめざして」

宮尾 克先生 (名古屋大学医学部)

「労安活動の目標と課題」

杉目 和明 (自治労連・対策委)

[郵政産業労働組合]

全国郵政労働者交流集会を開催

5/19～21、熱海にて 292名参加

労働科学の立場から、山田信也先生 (愛知働くものの健康センター理事長・名古屋大学名誉教授) が課題別交流会で「夜間労働と健康」と題して講演されました。

「いわゆる夜業は資本家が投下した資本を速やかに回収するために始めた働かせ方だ」「労働者は〃健康に良くない〃〃生活が乱れる〃と、反対してきた」。

労働科学の研究は「人間は夜働く動物ではない」という結論を導き出した。

それはなによりも人間の本性である〃生態リズム〃や脳波の検査ではっきりしたのです。

「深夜労働には〃慣れ〃はない」と先生は強調しました。

一人ひとりの生活ダイヤと夜勤システムの矛盾を調べ、夜働くことが生活にどのように影響するのかを告発することです。職場から健康の状態を自分たちの手で科学的に調査し、一人ひとりの労働者の次元から要求をつくりあげる闘い、それが出発点だと先生は言われました。

(6/1 付「郵産労」機関紙より抜粋)

お知らせ

[愛知健康センター]

『第5回 総会』を開催します

日時 7月29日(土) PM 1:30 ~5:00
場所 労働会館本館 2F 第4 会議室
(地下鉄「金山」下車、金山総合
駅北口から600m徒歩 7分)

結成4周年を迎える愛知健康センターの「第5回 総会」を上記の日程で開催します。

加盟団体・労働組合の労働安全衛生担当者には、万障繰り合せの上ご出席下さるよう準備お願い致します。

総会では、報告・討論・交流に充分時間をとることにしましたので、各団体労働組合には、1年間の活動報告・方針などご準備のうえご参加ください。

また、健康センターの活動や運営に対するご意見もぜひ出してください。

総会終了後、自由参加で懇親会を開催しますので、ふるって参加をお願いします。(会費は、3,000円程度)

新刊図書紹介

いのちと健康を守るために
はたらく者の安全衛生活動

定価 1,000円・発行 学習の友社

[名古屋過労死を考える家族の会]

傍聴で支援をお願いします

名古屋地裁 11F (1101号法廷)
※日程が変更される場合もありますので
お確かめの上、お出かけください。

6/30 (金) pm1:30~ 3:00 鈴木(俊)
(証人:服部Dr)

7/13 (木) am10:30 ~12:00 森下さん
(岐阜地裁3F)

7/21 (金) pm 1:00 ~ 新井さん

7/24 (月) pm 1:25 ~渡辺(光)さん

[労働省・中央労働災害防止協会]

平成7年度 全国安全週間

期間 7月1日~7月7日

(準備期間 6月1日~30日)

スローガン

つみとろう危険の芽

トップの決意みんなの努力

※ 全国安全週間実施要項は、各事業所に配布されています。

組合で確認をして労働安全衛生委員会の活動として取り組んでください。



職場の安全衛生

【 投 稿 】

住友軽金属で働いている鈴木明男さんが商業新聞に投稿されたものですが、「恒常的長時間労働をやめさせ過労死を防ぎ健康と家庭を守る会」を結成して活動をされています。その「投稿」の一部を紹介します。

私たちは、5年前に「恒常的長時間労働をやめさせ過労死を防ぎ健康と家庭を守る会」を結成して活動をつづけている。

結成当時、私の所属する健康保険組合が被保険者1,976人を対象に実施した「尿及び血液検査」の結果によれば、第1次で533人、第2次（追跡検査）を経て388人が「異常所見あり」と判断された。

実際に腰痛・胃潰瘍・痔・心筋梗塞・うつ病などで長期間、療養生活を余儀なくする人も多い。

また、労働災害も次々発生し、昨年末には、機械にまさまれて死亡した事故もあった。

こうした事態を「何とかしたい」と思う気持は職場でもかなり多い。

「健康と家庭を守る会」は「愛知働くものの健康センター」の協力を得ながら職場の安全や健康問題を論じ合ったり、「労働基準法」や「労働安全衛生法」などを学習した。

また、労災認定のための署名を集めたり、労働基準監督署などに働きかけてきた。その成果として認定がいくつかとれた。そんなときは被災者を囲んで皆で

喜び合った。

そんなおり、最近では産業の空洞化やリストラ「合理化」から生活と権利を守り向上させようと「会社の勝手を許さない110番」運動を展開中である。

ここでは定年制の繰り上げや、出向離籍を中心に相談活動を自由法曹団の先生を迎えて行なった。

「もし出向や離籍の声がかけられたらどう対処すればよいか」の予知質問や「会社は賃金の根拠が誤っている」の指摘のほか、未払い賃金250万円を支払いさせることもできた。

だが100年前のいわゆる「女工哀史」の実態は今もなお続いているのではないだろうか。

優しさ人間味と、かたや企業の利潤追及の論理とが、頭のなかで葛藤を始めた。

今こそ世界第2位の経済力を働くものの暮しや健康・権利の向上に生かすべきだと思う。

それには、国民ひとり一人の自覚と自立心で労働時間の短縮を求め、自由時間を拡げること、家族が揃って食事ができるように先ず自らの生活を見直すこと、ゆとりある生活を始めることだと思う。

人間らしく生き、人間らしく働き、そして死を迎えたい。と、———全ての人が願っているのではないだろうか。

(6/15、鈴木明男)



愛知健康センター第4年度のあゆみ

(94.7.23 ~ 95.7.28)

《 集会・交流会・学校 》

1. 94.7.23 『第4回 総会』 名古屋市女性会館
参加者 18 団体 34名
2. 94.10.7 『スエーデン研究者エルガードさん懇談会』
参加者 山田理事長はじめ役員が出席
3. 94.10.27 『過労死をなくす集い』 名古屋市女性会館
参加者 15 団体 47名
講師 水野幹男弁護士
「画期的な安労死判決について」
4. 94.11.27 『第4回労働安全衛生学習交流会』 名古屋市女性会館
参加者 13 組合 17名
報告*名水労 名高教 全国一般日本アクリル
JMIU日本労組
5. 94.12.4 『第3回地方でのいのちと健康を守る交流会』
参加者 18団体 24名 東京「カンダパンセ」
6. 95.2.14 『夜勤規制のとりくみ懇談会』 健康センター
参加者 9団体 13名
7. 95.2.19 『第6回いのちと健康を守る学校』 新労働会館本館
参加者 13団体 53名
講師 田淵哲雄氏(名南病院・内科医師)
希求座『過労死を考える一突然の明日』予告(30分)
8. 95.2.23 『ムービー 留学帰国報告懇談会』 健康センター
報告 小野雄一郎先生 参加者 7名
9. 95.3.23 『夜勤規制をすすめる要求交流会』 新労働会館本館
参加者 7 団体 11名
10. 95.5.13 『医療と看護をかたるシンポジウム』 名古屋市女性会館
医労連はじめ8 団体共催 参加者 約 150名
11. 95.5.23 『夜勤規制要求と運動についての懇談会』 健康センター
参加者 8 団体 19名
12. 95.5.24 『女性労働者の健康問題懇談会』 健康センター
参加者 6 団体 7名

《 ニュース・パンフ発行 》

1. 「いのちと健康ニュース」は、NO.67~93まで発行。

《 機関会議 》

- | | | |
|------------|---------|------|
| 1. 団体代表者会議 | 第1回~第2回 | 2回開催 |
| 2. 理事会 | 第1回~第6回 | 6回開催 |
| 3. 事務局会議 | 第1回~第9回 | 9回開催 |

《 労災・裁判 》

1. 山内過労死裁判 (最高裁)
郵産労東海地方本部・名古屋市職員労働組合が支援
2. 大同特殊紙過労死労災認定
故・松永安弘氏(半田監督署扱い) 92.7.12 審査請求提出
95.4. 再審査請求(中央) 95.2.23 請求却下
故・篠原慶人氏(南監督署扱い) 92.10.6 審査請求提出
(審査中)
3. 「名古屋過労死を考える家族の会」関係
①西枇杷島タクシー・故渡辺錠平氏過労死控訴事件(名高裁)
94.9.26 控訴却下(敗訴) 94.10. 最高裁上告

②間組・嘉戸工務店・故渡辺一夫氏過労死労災裁判(名地裁)

- 94.11.16 「栄総行動実行委員会」早期解決で間組へ要請。
95.1.19 「支援する会」代表・全建労東海地本中谷登氏
間組本社へ署名4200名 171団体提出。
95.4.19 「栄総行動実行委員会」、間組名古屋支店前で
ピラ配布、宣伝行動。

③森下労災裁判(岐阜地裁)

- 94.10.6 岐阜県労連へ支援を要請(署名、傍聴)
95.5.25 岐阜地裁へ署名4,017名、149団体提出。

④鈴木龍雄・過労死裁判(名地裁)

- 95.2.26 「鈴木龍雄・過労死裁判を支援する会」結成
個人会員 196名、団体会員 18 団体。

⑤柏木労災裁判(名地裁) 年金者組合愛知県本部が支援。

⑥松井労災裁判(名地裁) 銀産労愛知県支部が支援。

《 労災相談 》

1. 全医労・東那病院の看護婦(46才)さんが、夜勤中に脳内出血
で倒れ亡くなられた件で『公務災害認定』申請の相談。

《 健康調査 》

1. 建設一般全日自労愛知県本部から調査依頼。
春日井市にある冷凍・冷蔵工場で、75人の組合員が屋内低温作業
に従事している。頸、肩、肘、腕、手指或は腰などに痛みを訴え
る人が多数出ました。(95.2.23 山田・小野両先生が調査)

《 他団体交流 》

1. 94.7.24 社会医学研究会総会 (大阪)
参加 山田理事長・佐々木事務局長
全教・全国のちと健康交流会(愛知・蒲郡)
参加 山田理事長 (講演)
2. 94.8.24 中国・国際労働衛生学会(北京)
参加 山田理事長
3. 94.10.10 タイ・マレーシア経済・労働・生活調査団
参加 佐々木事務局長
4. 94.10.29 静岡健康センター労働安全衛生学習会(静岡)
参加 山田理事長 (講演)
5. 94.11.19 第4回現代労働負担研究会総会(大阪)
参加 佐々木事務局長
6. 95.1.8 愛労連・95国民春闘学習講座(名古屋)
参加 山田理事長 (講演)
7. 95.4.28 日本産業衛生学会「地域交流会」(名古屋)
参加 山田理事長はじめ8名
8. 95.5.5 チェコ・白蠟病(振動障害)国際会議
参加 山田理事長 (講演)
9. 95.5.19 全国郵政労働者交流会(静岡・熱海)
参加 山田理事長 (講演)

